

し、宿に向かいます。10月、30年小牧タムの完成とともに近くの村落は湖底に没し、温泉宿だけがタム湖と切り立つ断崖の間に取り残

集落を観光した後、和歌山は4月14日(土)は今年から太陽の会の入会は無料となっています

泉に宿泊。3日目は、石川 県七尾市の一本杉通りで文化財の街並みを散策し、の

# 子供服交換会 定期開催へ

## 4月からリサイクル店経営の宇野さん

不要となった子供服の物々交換イベントが今春から、苦小牧市内で定期開催される見通しだ。中心となって準備を進めているのは、市内弥生町でリサイクルショップ「小さな幸せ」を営む宇野智美さん(41)。市内ではこれまでも公共施設や子育てサークルが主催して子供服の交換会が行われてきたが、定期開催は珍しい。「苦小牧おさがり交換会」と銘打ち、4月下旬に第1回目を予定しており、現在、子供服の提供を受け付け中だ。



提供された子供服を整理する宇野さん

「おさがり交換会」は、地域貢献コンサルタント業やホームページの制作管理などを手掛ける香川県の企業、ユアインベーション(田邊匡行社長)が社会貢献活動の一環で全国各地で仕掛けている。

同社は子供服の交換イベントが全国で急増する中、場所の確保や在庫の保管など運営側に掛かる負担の大きさから長続きしていない現状を知り、長く継続できるような運営ノウハウを独自に構築。交換会を開きたいと考える人たちに公開したところ、2015年11月に岡山県倉敷市の住民がこのノウハウを活用した交換会をスタートさせた。月1回の定期開催が評判を呼び、同社のノウハウを使った交換会は全国各地に広まって

いる。自身の子育て経験から苦小牧市内で継続的に子供服を交換し合える場所があれば、お母さんたちはとても助かる」と考えていた、宇野さん。今年1月に同社の取り組みを知り、田邊社長に相談したところ、同社の協力を得て、4月下旬に市内でおさがり交換会をスタートさせるめどが付いたという。

宇野さんは「子供の成長はあっという間で、服を購入しなくても着られる期間はほんの一時」と指摘。「みんなで服を循環し合うことで家計も助かるし、何よりも資源の無駄にならない」と話す。

具体的な場所や日時、当日のルールなどは現在検討中だが、当面は毎月1回の開催を目指す。

初回開催に先立ち、家庭で不要になっている子供服を集めている。回収場所は「ちいさなしあわせ」―苦小牧市弥生町2の13の15宮永商店内と、ゴルフ練習場ゴルフフォーラムクレスト99―同市北栄町5の5の20。

問い合わせは宇野さん 電子メールアドレス tomako.nai@osagari.link

船でしか行けない大牧浦